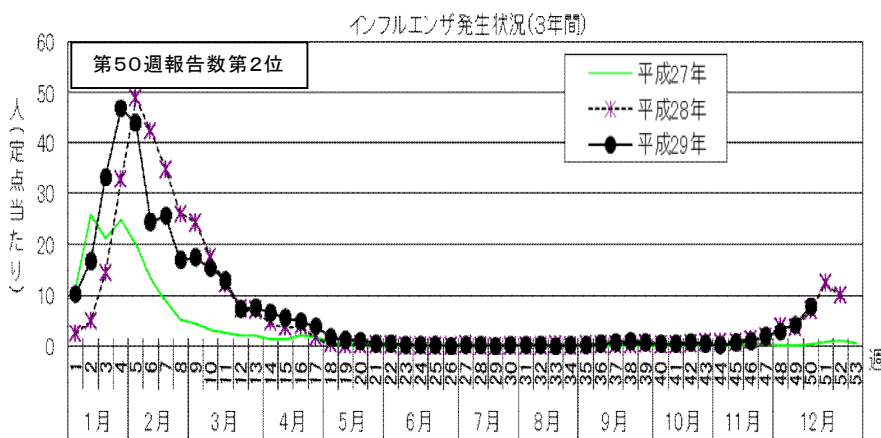
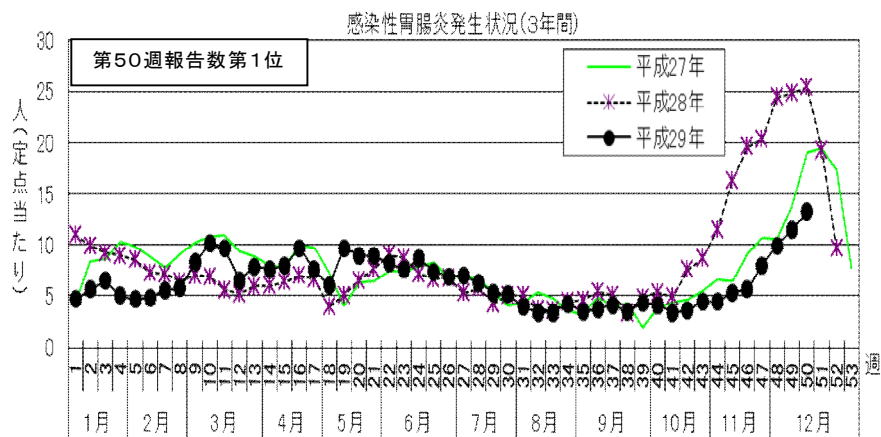


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年12月1日（月）～平成29年12月17日（日）〔平成29年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は13.27人と前週（11.49人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.77人と前週（4.18人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.46人と前週（4.22人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



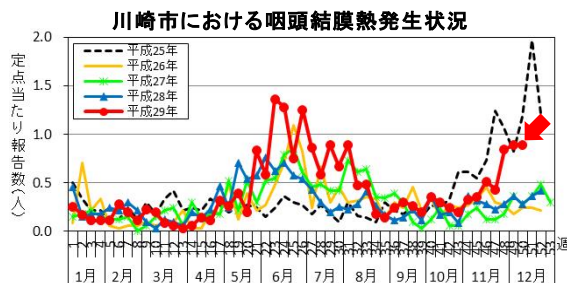
## 発熱はインフルエンザだけではありません！

冬季に流行する疾患のうち発熱を主症状とするものは、インフルエンザ以外にも様々な疾患があります。今年は例年と比べて、咽頭結膜熱やA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が多くなっています。

咽頭結膜熱は、平成29年第50週（12月11日～12月17日）の定点当たり患者報告数が0.89人と、過去5年間の同時期と比べて2番目に多くなっています。また、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、平成29年第50週の定点当たり患者報告数が4.46人と、過去5年間の同時期と比べて最多です。

### 咽頭結膜熱

- ◆潜伏期間 5～7日間
- ◆好発年齢 5歳以下の小児
- ◆発熱以外の主な症状  
咽頭痛、全身倦怠感、結膜充血、目の痛み等



### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ◆潜伏期間 2～5日間
- ◆好発年齢 就学前後（4歳～7歳）の小児
- ◆発熱以外の主な症状  
咽頭痛、発疹、莓舌※（※イチゴのように赤くボツボツした状態）

